

ハイデルベルク信仰問答より

問 46 「主は天に昇り」という言葉を、あなたはどのように理解しますか。

答え それは、キリストが弟子の目の前で、地上から天に上げられ（ルカ 24:50-51）、再び生ける者と死ねる者とを裁くために来られるまで（使徒 1:11、10:42）、私たちに代わってそこにとどまっておられる（ヘブル 9:24）ということでもあります。

問 46～51 では、使徒信条の「(主は) 天に昇り」「全能の父なる神の右に座したまえり」の部分、主イエスの昇天の出来事に焦点が当てられています。その中でも、冒頭の間 46 では、私たちが日頃告白している「主の昇天」をどう理解しているかが問われます。

この部分は、キリスト教の教理の中でも最も誤解されやすい内容の一つではないでしょうか。信仰を持たない人々に向けて、主イエスは死んで終わったのではなく、甦って後、天に昇り、今も生きておられることを説明する必要があるのです。ある方からこのように言われたことがあります。「イエス様だって死んでしまって今はもういらっしゃらないじゃないですか」。このような問いかけに対し、キリスト者は「私たちは死んでしまった人を信じているのではなく、甦って今も生きて働いておられる方を信じているのです」と確信を持って説明していかななくてはなりません。

問 46 の答えには、三つのポイントがあると言えるでしょう。

- ①キリストは弟子の目の前で天に上げられた
- ②やがて再臨して審きを行なわれる
- ③私たちの代わりに天に留まっておられる

これらを「どう理解しているか」という観点から考えてみたいと思います。

①キリストは弟子の目の前で天に上げられた

主イエスが天に上げられた出来事は、現代の読者は実際にはその現場を見ていないため、十分に説明することができません。昇天にまつわる二つの聖書記事から理解するほかはない事柄です。

- ・ それから、イエスは、彼らをベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして祝福しながら、彼らから離れて行かれた。（ルカ24:50-51）
- ・ こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。

（使徒1:9）

実はここでは、「離れて行かれた」「上げられた」と言われているだけで、「天」ということばそのものは使われていないことに一応注意すべきです。主イエスが人間世界から神的領域に移されたことを意味する表現であり、聖書では神がおられる場所について「天」と呼ぶこ

とから、「天に昇られた」と言われるようになったのです。ただ実際、「雲に包まれて」と言われるように、視覚的にも弟子たちの手の届かない所へと引き上げられたことが想像できません。

②やがて再臨して審きを行なわれる

ここでは、主イエスが天に移された目的が語られています。それは、再び地に降りて来られ、最後の審判を行なわれるということです。しかし、一つ疑問に思う点としては、主は何故に「審き主」として地に留まり続けてくださらなかったのかということです。十字架において罪と死を滅ぼされたのであれば、そのまま地上の罪を根絶していただければよかったのに……と思わざるをえないでしょう。多くの人のつまずきは、十字架の出来事の後も変わらず罪が蔓延しているというところにあります。しかし、主は宣教の働きを地上の教会に託して、行ってしまわれました。その際、弟子たちに約束されたことが二つありました。

(1) もう一人の助け主（聖霊）を派遣する（ヨハネ 14:6）

(2) やがて再臨する（黙示録 22:20）

聖霊が派遣されることと、再臨の日が「やがて」であることとの間には、密接な関係があるようです。それは、再臨の前に宣教が進められ、信じる人々に救いが与えられなくてはならないということです（ローマ 11:26）。その時が満ちるまで、主は忍耐深く再臨の時を待っておられます。

③私たちの代わりに天に留まっておられる

問 46 の答えの中で、主イエスが天に留まっておられる理由について「私たちの代わりに」と言われている点が気になります。主は自分の安泰のために神の領域に居座っておられるのではないようです。「私たちの代わりに」には、少なくとも以下の意味が含まれているでしょう。

(1) 罪人をとりなすために天におられる（ローマ 8:34）

(2) 信じる者のために天に住まいを用意しておられる（ヨハネ 14:2）

もう少し掘り下げて言うならば、現時点では私たちには罪があるため、最終的な神の領域に入ることはできません。そのような「私たちの代わりに」主イエスが「頭金」のように先に天に入っていてくださるということでしょう。そして、私たちが天において住むべき場所をちゃんと用意して下さっているということです。

今日は、私たちが日頃告白している「（主は）天に昇り」の意味を考えました。主の昇天にまつわる内容は問 51 まで続きます。本来問 46～51 を一まとめに読むべきところではありますが、その全体を念頭に置きつつ、一問ずつ扱ってまいります。主イエスが天でなさっていることが、まことに私たちの救いの完成のためのものであることを心に留めたいと思います。